令和5年12月1日発行（毎月1回1日発行）第53巻第12号 通巻567号 昭和56年8月17日 第三種郵便物認可

吟剣詩舞

ginkenshibu

第38回国民文化祭
第23回全国障害者芸術・文化祭
いしかわ百万石文化祭2023
全国吟剣詩舞道祭

表紙の詩

絶句　杜甫

江碧にして鳥逾白く
山青うして花然えんと欲す
今春看又過ぐ
何れの日か是れ帰年ならん

創立45周年記念
東京都吟剣詩舞道大会

吟剣詩舞の故郷 シリーズ
「鹿児島城」（鹿児島県）

12
令和5年
師走

舞台のオープニングは吟剣詩舞スーパーチームによる「川中島の戦い」で始まった
スーパーチームの華麗な演舞に会場は静まり返った(下)

第38回国民文化祭・第23回全国障害者芸術・文化祭
いしかわ百万石文化祭2023
全国吟剣詩舞道祭

日　時：令和5年10月22日(日)
場　所：金沢市文化ホール
主　催：文化庁／厚生労働省／石川県／石川県教育委員会／金沢市／金沢市教育委員会
いしかわ百万石文化祭2023実行委員会／いしかわ百万石文化祭2023金沢市実行委員会
公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会／石川県吟剣詩舞道総連盟
特別協力：北國新聞社／一般財団法人石川県芸術文化協会

石川県で国民文化祭が開催されるのは平成4年(1992年)の第7回大会以来、31年ぶり2回目の開催となりました。加賀百万石が育んだ伝統芸能や伝統工芸、祭りや食、そしてクラシック音楽や現代アートなどの催しが10月14日から11月26日まで、県内各所で繰り広げられました。キャッチフレーズは〝文化絢爛(ぶんかけんらん)〟。10月15日の開会式には天皇皇后両陛下が出席。金沢の街全体が文化イベントで賑わう中、吟剣詩舞の祭典は10月22日に開催されました。

「全国から多くの方々にお集まりいただき、歴史と伝統が息づく金沢の地で伝統芸道を披露していただいたことに感謝いたします」と、舞台の一部を観賞した村山 卓 金沢市長

会場となった金沢市文化ホール

構成吟剣詩舞「百華の響き」の幕開けは、地元ゆかりの迫力ある太鼓演舞「御陣乗太鼓」

上杉謙信に扮して『九月十三夜陣中の作』を舞う、渋川流剣詩舞道の田村天聖月宗家。吟は今大会の副会長で、総務委員長として現場を仕切る大役をこなした前山紫峰さん（吟道紫虹流・第20期少壮吟士）。いずれも石川県を代表する剣詩舞家と吟詠家だ

加賀百万石の地に華開く文化絢爛（ぶんかけんらん）

前日に降っていた雨は上がり、当日は清々しい錦秋の快晴。会場となった金沢市文化ホールには地元はもちろんのこと、全国各地から吟詠、剣詩舞愛好家が続々とつめかけてきました。一般の方々にも吟剣詩舞を観ていただくために入場無料ということもあり、関係者以外の入場者も多く、900名収容の座席はほぼ満席。文化の国体とも称される華やかな舞台に、出演者たちの緊張感がホール全体に伝わってきました。

経田岳悠（北陸岳水会会長）大会実行委員長による開会宣言で幕が上がると、吟剣詩舞スーパーチームの演舞『川中島の戦い』が演じられました。全国から選ばれた吟剣詩舞界のトップクラスの若者たちによる、洗練された演舞に観客は魅了され、終えると同時に会場は大きな拍手とどよめきに包まれました。

続く第一部は県内参加団体による合吟と群舞の発表。石川吟詠会男子、白鳥吟詠会女子をはじめとする12団体が日ごろの研鑽の成果を詠じました。吟題も地元にちなんだ『名勝兼六園』や『立山を望む』などが選ばれ、堂々と吟じられました。

第二部は全国各地の吟詠団体による合吟です。近隣の富山、福井をはじめ長野、岩手、愛知、静岡の各県から参加した11団体による合吟が披露されました。次の第三部は全国の剣詩舞団体による群舞で、富山、福井のほか静岡、愛知、三重、広島の6県から9団体が演じました。

吟剣詩舞の魅力をめくるめく吟題に乗せて

昼食休憩をはさみ、13時から始まった式典には来賓の馳 浩 石川県知事（代理）、村山 卓 金沢市長（代理）、沼崎 富 日本吟剣詩舞振興会会長のほか参加各県総連の理事長などが列席。大会会長をつとめる石川県吟剣詩舞道総連盟の北瀬岳櫻（金沢名吟会）理事長が挨拶に立ち、「私は約30年前にここ石川県で開催された国民文化祭にも参加しましたが、振り返ると感慨深いものがあります。今回は、コロナ禍を経てこのように盛大に開催されましたことは、すべての関係者の皆さまのおかげと心から感謝いたします（略）」と述べました。

上：県内や全国から参加した団体による合吟が、次々と舞台で吟じられた。写真は石川県吟詠会女子
下：全国宗家・会長吟剣詩舞披露で『名槍日本号』を舞う、富山県から参加の渋川流吟剣詩舞道剣楓会の松澤天楓会長

第四部の全国宗家・会長の吟剣詩舞披露には岐阜県の山本演志先生（吟剣詩舞演心会会長）や中部地区連絡協議会議長の入倉昭星先生（日本壮心流宗家）をはじめ、名だたる先生方の演舞に多くの拍手が寄せられました。

いよいよ第五部、構成吟剣詩舞「百華の響き」の始まりです。

暗闇の舞台中央からスポットライトを浴びてせり上り、『御陣乗太鼓』（石川県指定無形文化財）が始まりました。大正4年（1576年）越後の上杉謙信が能登に攻め入ったときに、武器のない村人たちが木の皮で仮面を作り、海藻を頭髪とし、太鼓を打ち鳴らしながら寝静まる上杉勢に夜襲をかけました。その迫力ある太鼓の音と踊りが演じられたのでした。

これに続き「能登」「加賀」、そして「金沢」にゆかりのある詩歌を吟詠と剣詩舞で綴る構成番組が、地元の吟剣詩舞家の総力をあげて演じられました。

フィナーレの合吟の前には、北瀬岳櫻大会会長（少壮吟士19期）が、金沢市民憲章の歌『金木犀の匂う道』（中田敏明作詞・小椋佳作曲）をしっとりと詠いあげ、会場内は静けさに包まれ、金沢らしい落ち着いたフィナーレを迎え、出島岳将（日本詩吟学院副理事長）大会副会長による閉会の挨拶をもって、全国吟剣詩舞道祭は成功裡に終わりました。

大会会長をつとめた北瀬岳櫻さんは「31年前に初めて石川県で開催された国文祭にも参加し、当時は弟子の立場でしたので感慨深いです」

大会役員に加え「百華の響き」の出演者などが舞台上に上がり、達成感あふれる感動的なフィナーレとなった

式典で挨拶する毛塚理事長。下手側に都総連役員、上手側に日本吟剣詩舞振興会役員などの来賓が並んだ(写真右)。来賓吟詠の最後に『君子行』を披露する日本吟剣詩舞振興会沼崎富会長。沼崎会長は長らく都総連の役員を務めた(写真左)

創立45周年記念 東京都吟剣詩舞道大会

花のお江戸で45年、決意新たに吟と舞

昭和43(1968)年に日本吟剣詩舞振興会が創立してから9年後。昭和52年4月に東京海洋会館にて結成総会が開催され、発足した東京都吟剣詩舞道総連盟(都総連)。この度45周年を迎え、北区の「北とぴあ・さくらホール」にて、記念大会が盛大に開催されました。各区連代表による合吟コンクールのほか、幼少青年と一般の二つの企画構成吟、そして今回はじめて各流各会の宗家会長による吟詠発表も実施。7時間以上にわたり、盛りだくさんの内容で華やかな舞台が繰り広げられました。

日時:令和5年10月8日(日)
場所:東京都北区北とぴあ・さくらホール
主催:公益財団法人公認 東京都吟剣詩舞道総連盟
後援:公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会

昭和52年、日本吟剣詩舞振興会の前会長で、都総連・菅原雪山最高顧問のお父様を理事長として発足した東京都吟剣詩舞道総連盟。東京都23区のほか、多摩地区を含めて29の区連から成っています。

半世紀につながる45周年記念大会、王子の北とぴあには多くの都総連会員および吟詠愛好者が集まります。10時半から開会のことばに始まり、国家斉唱、財団会詩合吟に続いて、3区連の代表による自由合吟。そして15区連による合吟コンクールが開始。昨年の全国吟剣詩舞道大会と同じ11人制(最少9人)ですが、男女混合チームでも可。日頃の練習の成果を披露します。

続いて幼少青年の企画構成吟「李白、船に乗った」。唐から日本に戻ることになった阿倍仲麻呂が乗った船に李白、杜甫、王維の三人もこっそり同乗するという遣唐使ファンタジー。唐と日本の名詩を、都総連の各流派で学ぶ幼少青年が見事な吟と舞で表現します。

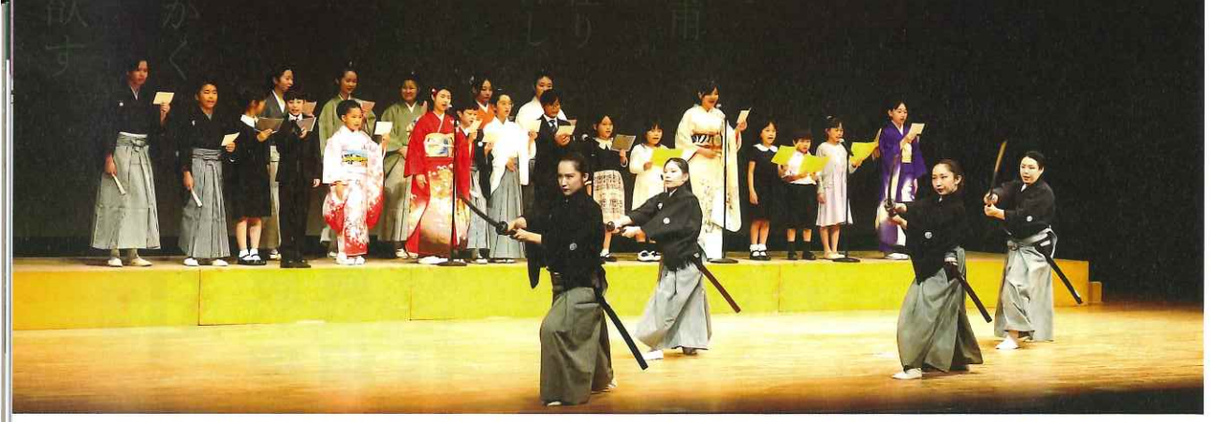
昼食休憩をはさんで式典開催。毛塚静精理事長が「幼少年の大人顔負けの舞台、心から素晴らしかったという拍手をいただきました。午後の吟剣詩舞道ヒットパレードもお楽しみください」と挨拶。祝辞や花束贈呈と続きます。

次は菅原最高顧問の発案で始まったという「宗家・会長吟詠」。毛塚理事長も『静夜思』を披露。続く「来賓吟詠」では財団のかつての役員や沼崎富会長が衰えぬ自慢の喉を聞かせます。

そして最後は一般の企画構成吟「戦国終焉」。織田信長の天下統一から豊臣秀吉、徳川家康という三英傑の生涯を都総連各流派の吟と舞で構成。戦国時代を描いた漢詩と和歌の数々が次々に披露され、北とぴあを埋めた観客はその豪華な舞台に酔いしれます。

笹川鎮江二代会長の名吟で知られる『兜』で締めくくり、最後に毛塚理事長が合吟コンクールの結果を発表。入賞した5位までの代表が壇上に上がり、45周年記念大会の最後を飾りました。

一般の企画構成吟「戦国終焉」は平成4年度の名流大会で行われた舞台を再現。フィナーレの『兜』では毛塚静精理事長と現役およびOB少壮吟士などトップ吟詠家の吟に、齋木彩染社中と石井誠紀社中が詩舞と剣舞で華を添えた



幼少青年による企画構成吟「李白、船に乗った」で、出演した吟士全員の吟詠により、女子剣士4人が杜甫の『春望』を勇壮ながらも哀感を込めて舞う

初共演となった凱山流の五月女凱昂、昂父子。「緊張して自分のほうがうまくいきませんでした」とスーパーチームメンバーの凱昂さん

上:「李白、船に乗った」のラスト、吟亮流の女子高生5人が阿倍仲麻呂の『天の原』を詠い、日本壮心流の入倉昭鳳東京支部長が情感あふれる詩舞で心情を表現した
下:『信長出陣』で「天下布武」と書かれたマントを着て登場した誠紀流の石井誠紀宗家。吟詠は吟亮流の鈴木吟亮宗家で、宗家同士のコラボレーション

合吟コンクール優勝は渋谷区連

15区連が登場した合吟コンクールでは、男性9人の渋谷区連が声量豊かな吟で優勝。表彰式で登壇した牧蘇山さんは「もう最高です。11人いれば声の力で入賞ぐらいできるかもと思っていたので、まさか優勝するとは。チームワークの良さが勝因かも」と嬉しいコメント。

『事に感ず』を詠って見事に優勝した渋谷区連。全体練習は舞台を借りても行ったそう

一番右が優勝の渋谷区連、以下2位〜5位で中野、南多摩一、足立、杉並各区連(各2人)